

日本原子力学会核燃料部会

平成15年第4回運営委員会議事録

日時 :平成15年9月24日(木) 11:00~12:00

場所 :静岡大学静岡キャンパス

出席者:(順不同 敬称略)

山脇部会長、森副会長、杉崎委員、寺井委員、森山委員、更田委員、伊東委員、林委員、木下委員、緒方委員、河野委員、藤田委員、和田委員、須田(松本委員後任)

[代理出席]米山氏(坂井委員代理)、三島氏(米田委員代理)

議事

1. 前回議事録及び総会議事録について

本件、承認済であることが松本委員より報告された。

2. 核燃料部会報(平成15年12月発行予定)執筆者の推薦について

米山氏(坂井委員代理)より、資料2にて報告された。前回の運営委員会からの変更点としては、V. 国際会議紹介として『2003年IUPAC高温化学会議の報告(山脇部会長)』、X. 会員の声として工藤氏(原研)、上村氏(原燃工)に執筆していただく提案があり、承認された。IV. 特別講演については、本日午後に講演いただく『IAEAにおける燃料サイクル関連活動について』(IAEA原子力局核燃料サイクル課長 福田幸朔氏)を寄稿していただく提案があり、承認された。今後は、米山氏より各執筆者に正式にお願いし、11月原稿締め切り、12月発行で進めることが確認された。

3. 平成15年度夏期セミナー報告

更田委員より、資料3にて報告された。平成15年度の夏期セミナーの収支は、収入1,620,000円、支出1,303,371円、差額316,629円は核燃料部会に繰り入れる旨の報告があった。今回黒字になった理由は、収入が厳しいこともあり講演を頂いた先生方からも参加費を頂いたこと。また、印刷製本をコピーとし、原研殿に製本作業を行っていただいたこともあり支出を抑えることが出来た。したがって、黒字にはなったものの収支が厳しい状況に変わらない。反省として、『核燃料部会メンバーではない講演を頂いた先生方からも参加費を頂くのはいかがなものか。』との意見があり、『次回からは核燃料部会メンバーではない先生に講演を頂いた場合は、参加費を頂かない。』が確認された。

また、夏期セミナーアンケート結果、及び原子力学会誌に載せる夏期セミナー報告(案)が提示され、委員の方々から後日コメントいただきたい旨の報告があった。

4. 平成16年夏期セミナー企画立案状況について

伊東委員より、資料4-1、4-2にて報告された。期日は2004年7月7日~10日又は7月14日~17日、開催候補及び費用については下表の通り。

| 開催地 | 宿泊場所 | 見学先 | 備考 |
|-----|-----------|------|--|
| 札幌 | ポールスター札幌 | 泊発電所 | 宿泊料:9,345円 / 人・泊(シングル / 朝食込み) 宴会費:5,000円 / 人 会場:100~150人 会場費:175,500円 / 日 |
| 小樽 | 小樽グランドホテル | 泊発電所 | 宿泊料:13,500x0.9円 / 人・泊 (シングル、交渉の余地あり) 宴会費:5,000円 / 人 |

| | | | |
|-----|----------------|----------------------------|--|
| | | | 会場:140人 会場費:350,000円 / 日 |
| 洞爺湖 | 洞爺湖温泉 ホテル天翔 | 泊発電所 日本製鋼所 厚真石炭火力発電所 | 宿泊料:5,500~12,000円 / 人・泊(4~5名 / 室) 宴会費:8,500円 / 人 会場:150人 会場費:150,000円 / 日 |

期日は2004年7月14日～17日、開催地は費用を考慮して洞爺湖温泉に決定した。アンケートによれば宿泊施設として、シングルルーム希望が多かったが、セミナーの趣旨から考えれば必ずしも希望に沿わなくてもよいのではないかとの意見があった。シングルルームを希望される方は、会場近くのホテルを個人で予約していただき、セミナーに参加してもらうことも可能であるとの意見があった。部会としてはシングルルームの予約は受けないこととする。

5. 原子力学会春の年会での企画セッションについて

和田委員より、昨年春に材料部会、核融合工学部会と共催で実施された日韓中セミナーを来年春にも行うこと以外は提案を頂いていない旨報告があり、これを企画セッションとする方向で今後詳細を詰めることになった。

6. 軽水炉燃料専門家会議2005年開催について

木下委員から前回に引き続いて報告が行われた。開催場所は京都テルサで検討されている。組織委員会には出澤取締役(原電)に委員長をお願いし、会場の下見を兼ねて10月3日に第一回組織委員会を京都テルサで行う予定。併せてプログラム委員会を立ち上げる必要があり、協力をお願いしたい。会議の名称については『水炉燃料挙動専門家会議(Water Reactor Fuel Performance Meeting)』の提案があった。今後3年毎にアジアで開催される会議であり、TOP Fuelに負けられないような良い名称はないかとの議論があったが、今回は暫定的に提案された名称とし、今後略称を検討することが確認された。

7. 部会ホームページについて

河野委員より、資料7にて報告された。前回運営委員会以降の更新内容は、運営委員会名簿更新、運営委員会議事録更新及びメーリングリストの登録・削除。今後は、運営委員会議事録更新、平成15年夏期セミナー報告掲載、リンク集増設及びメーリングリストへの部会員の登録を予定している。

8. 学会誌への連載講座について

森副会長より、資料8にて報告された。『核燃料技術の基礎』連載講座が正式に学会から要請された。連載講座は10回(5ページ/回)、2004年3月から連載開始する。本年10月までに企画委員会へ資料を提出する必要がある、本日の資料8は第5回～6回までを念頭に作成しており、本資料を運営委員会で検討いただき、その結果を企画委員会へ提出したい。

連載講座の目次(案)については、前回の運営委員会に提案した内容と同じであるが、『軽水炉燃料の構造と機械設計』の回数を若干増やしている。編集委員からは軽水炉燃料を中心に行うように要請されているが、最後に軽水炉燃料以外にも若干触れるような構成にしている。対象とする読者は原子力産業へ携わる新人を考えている。また、従来の連載講座は一人の方又は多数で執筆される場合が多かったが、今回は岩田先生、伊東氏、土井氏、森氏の四名で進めることとしたい旨提案があり、了承された。企画委員会が10月中旬に開催される予定であり、御意見頂ければ森副会長まで御連絡いただきたい。

9. 韓国との国際交流について

森副会長より、資料9-1、資料9-2にて報告された。韓国原子力学会Nuclear Materials and Fuel CommitteeのYang氏から大井氏経由で『佐世保の次のJoint Fuel-Material Seminarを10月に韓国で開催したい。セミナーでは6～8編の論文を計画している。日本からの参加者3名の交通費はKAERIが支援できる。』旨の連絡があった。開催場所はYongpyung(ソウルから車で2時間の距離で昨年セミナーを開催した場所)。日時は10月29日9:30～12:30(9月23日に30日から29日に変更する連絡があった。)。日本側は3部会が本セミナーの共催であるので、日本側からの派遣者は各部会からの推薦とし、下記とすることが承認された。

・核燃料部会（山脇先生）

Essence of Verification Test on LWR High Burnup Fuels Sponsored by METI

発表以外にMemorandum of Understanding(MOU)へのサイン及び2005年の燃料に関する国際会議についても打ち合わせてもらう。

・材料部会（杉山氏 原研）

LWR Fuel Behavior under Reactivity Initiated Accident Conditions

・核融合工学部会（木村先生）

Fuel Clad Materials R&D for High Burnup Operation of Advanced Water-Cooling Nuclear Energy System (METI Program)

内容について質疑があり、森副会長から内容を確認し、ZRY以外又は構造材でお願いしたい旨伝えることとなった。

今後の課題は、日本側は3部会共催であることからセミナー開催のルール化（セミナーのトピック、発表者の選考、企画セッションとの関係等）、日本開催の場合の韓国メンバーの支援方法等がある。支援方法については、各部会とも細々とした予算で運営しており、原子力学会の国際プロジェクト基金を利用できないかとの意見も出された。

議題ではないが、その他として日本原子力研究所の材料試験炉(JMTR)は老朽化のために廃止の案が出ている。森副会長がJMTR将来計画検討委員会のメンバーになっており、核燃料部会のメンバーの方々の意見を伺いたく紹介された。本件はかなり重要な問題であり、別途検討の場を設けることとした。

10. フェロー制度について

日本原子力学会総務財務委員会から、各部会長、支部長宛にフェロー制度開設主旨の連絡があり、2ヶ月以内にご意見を伺いたい旨の連絡があった。山脇会長よりフェロー制度の主旨及び内容について、資料10-1、10-2、10-3にて報告された。

フェロー制度は、功績のある方々に積極的にかつ継続的に本会活動に参加していただき、また寄付により財政的にも支援して頂くことを主旨としている。具体的には年会費とは別に年会費相当額以上を本会に寄付していただきご支援をいただく。また、フェローの推薦についてはフェロー推薦委員会を設け候補者を選考し、理事会が候補者をフェローに推薦する。フェローの総数は開設後数年間の経験を踏まえて、フェロー推薦委員会が中心となって議論を進め発議する。

上記に対して、部会の意見としては年配会員の方々への配慮を検討いただきたいことを要望することとなった。

11. 運営委員交代について

松本委員から下記委員交代の紹介があり、承認された。

（三菱マテリアル） 松本邦雄委員 → 須田佳孝委員

12. 総会配布資料の確認

松本委員より第21回会員総会資料『日本原子力学会核燃料部会活動報告及び今後の活動計画』の説明が行われ、内容が確認された。

また、運営委員名簿（和文／英文）及び今後の予定も紹介された。その中で、平成15年第5回運営委員会を平成16年1月開催を平成15年12月開催としたい旨の提案があり承認された。

以上

もどる